

(様式1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国小学校
校長名	平林 久美子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国平均を5ポイント以上下回る項目がなくなり、全体として学力が向上した。・本校の弱点であった算数と理科が著しく向上した。国語と社会も良好である。・持ち上がりの第4学年と第6学年において、D・E層が減少した。特に、第6学年の理科・社会は、D・E層の割合が半減した。	<ul style="list-style-type: none">・D層からC層・B層に上がった児童をD層に戻さないこと。・B層の上位層をA層に引き上げること。・漢字の習得等、言語についての知識・理解・技能が他の領域よりも劣る。既習事項を活用するなど、言語生活の充実が課題である。・活用する力を高めること。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「テスト直し」を全校で奨励したことにより、「そのままにしてしまう」は1割以下となり、「いつもやり直している」が35%～50%前後となった。・「辞書引き」を全校で奨励したことにより、「学校でも家でも調べている」が3割前後になったが、依然「家では調べている」が最も多い。・家庭学習を自分で計画して行っている児童が多い学級は、学力調査の結果が良い。	<ul style="list-style-type: none">・「いつもやり直している」が60～70%になるように、テスト直しをすることを徹底する。・「学校でも家でも調べている」が5割を超えるように、環境整備と調べる時間の確保を行う。・授業改善と家庭への呼びかけにより、より主体的な学び手を育成する。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・高学年においては、「解決すべき問題を自分たちで設定すること」ができるようになり、「対話的・協働的な学びを通して、深い学びが実現できること」を実感する児童が増えている。・低学年のうちから、児童が自分の考えをノートやワークシートに書く力が身に付いている。・熱心な保護者が多く、学力向上全体計画等に基づき、家庭学習の充実が図られている。	<ul style="list-style-type: none">・学習の達成状況が学級によって異なる。OJTや校内研の充実を通して、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、授業改善により一層取り組む。・速く多く書ける児童が多い一方で、書字が雑な児童が多い。硬筆書写や視写などを通して、整った字形を身に付けさせたい。・通塾等のスケジュールが過密で、主体的に学びに向かう意欲が乏しい児童も見受けられる。すべての児童に「学ぶ喜び」を味わわせたい。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

昨年度より全校で取り組んだ「学力向上6つのチャレンジ」が成果を上げ始めている。今年度は、修正を加えながら引き続き実践を継続・徹底することで、更なる向上を目指す。

(1) 必ずテスト直しをすること

全学級で取り組んだはずであるが、「いつもやり直している」という意識の児童は3割から5割前後に留まっている。「やらなくても済んでいる」状況があり、個人差が生じている。青のサインペンで「100点」にするなど、すべての児童がテスト直しに取り組む工夫が必要である。

(2) 辞書をいつでも引けるようにすること

1年生からすべての教室に辞書を設置し、3年生以上は机の横に「辞書袋」をぶら下げるなど、家庭にも呼びかけ、辞書に親しむ環境を整えている。高学年の児童の語彙力は極めて高い。しかし、意識調査においては、未だに「家では調べている」が「学校でも家でも調べている」を上回っている。ぜひ、「学校でも家でも調べている」という状況が当たり前になるようにしたい。

(3) 教室や廊下に地図を置いて活用すること

「テレビの横に地図帳」を家庭にも呼びかけ、学校においても地図に親しむコーナーを設置している。校外学習等においても、地図を活用する場を設け、地図を読み、活用できる力を育成する。

(4) 理科実験OJT及び理科室や学校園等の理科学習の環境整備

昨年度より、「理科実験OJTの実施」「理科室にホワイトボードと板書用シートを設置」「理科準備室等の教材の廃棄・整理」「国立博物館での授業」等、理科学習の充実に力を入れてきた。まずは、教師が「理科好き」になること。教科部会の理科部、校内研の理科分科会が中心となり、理科教育の充実に努めたい。

(5) 「両国小 板書・ノート作りの手引き」の活用と加除修正

今年度4月に「両国小 板書・ノート作りの手引き」を学力向上委員会の国語・社会・算数・理科担当が協働で作成し、全教員に配付した。その手引きを活用し、授業改善に生かすことが本年度の取組となる。また、手引きは、実践をしたうえで、加除修正を加え改善していく。

(6) 「ピンポイント学習」の継続実施

昨年度の秋より、学習状況調査の結果分析をした各学年の苦手分野を朝学習で一斉に取り組む「ピンポイント学習」(月1回)を確実に実施したことが、学力状況調査の結果に結びついた。全学級が同時に「ピンポイント学習」に取り組み、継続することが更なる成果を生み出すことになる。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・ D・E層を更に減らし、B層とA層の割合がほぼ同じになるまで引き上げること。
- ・ 意識調査において、「テスト直し」「辞書の活用」の完全定着を5割から7割に高めること。
- ・ 令和元年度の学習状況調査で平均正答率が低かった問題を「ピンポイント学習」で克服すること。

保護者の皆様

家庭と学校の連携により、本校の学力の状況は、大変良好です。

昨年度9月より全校体制で取り組んだ「6つのチャレンジ」と、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善、そして、各御家庭での家庭学習の取組が、学力向上の成果要因だと考えます。

そこで、今年度は、更なる授業改善と同時に、「6つのチャレンジ」を全学級において、全ての児童がきちんと行うことができるようにすることを共通の目標に設定しました。

6つのチャレンジの**(1)「必ずテスト直しをすること」**については、保護者の皆様の御協力がどうしても必要です。

- 1 テストの点数に対して、絶対に叱らないでください。「テスト直しががんばって！」と声掛けをお願いします。
- 2 間違えた問題の原因究明や復習をして、理解できるようになったことを褒めてください。

お子さんが満1歳を過ぎた頃、歩いてはよく転んでいたことを思い出してください。お子さんが転んで、自力で立ち上がったとき、「強い、強い！」と拍手をして、ぎゅっと抱きしめたり、「高い高い」をしてあげたりしたことがあったと思います。「なぜ、転ぶの！だめでしょ！」とは言わなかったはずで、それと同じです。

失敗をしても投げ出さず、最後まで粘り強く学び続ける「学びに向かう力・人間性」(生き方)を身に付けることが、点数を上げることよりもずっとずっと大切です。

<両国小まなびスタンダード（平成28年9月策定）>

(1) 授業編

両国小 授業スタンダード

- ① 「『はい』（挙手、返事）、立つ（立って発言）、『です。』（丁寧語で話す）」を守りましょう。
- ② 次の授業の準備をしてからトイレ、水飲み、遊びをし、時計を見て着席しましょう。
- ③ 授業中は、全員に聞こえる声で「私は・・・です（ます）。」と主語を入れて話しましょう。そして、結論を言うてから理由を必ず加えて話すようにしましょう。
- ④ 先生や友達の話最後まで黙って聴き、必要なことを質問しましょう。
- ⑤ 「分からないこと」「疑問に思うこと」を伝え合い、一人でじっくり考えたり、友達と意見を交流したりすることを通して、学びを深めましょう。
- ⑥ 習った漢字は必ず使うようにしましょう。忘れたら、教科書や国語辞典で調べましょう。

(2) 家庭学習編

両国小 家庭学習スタンダード

- ① 宿題は必ずやりましょう。
(2時間やっても終わらなかった場合は、心と体の健康のためにやめて、自分で先生に言いましょう。)
- ② テレビや音楽を消して、時間を区切って集中して学習しましょう。
- ③ テレビの横に国語辞典と地図帳を置いて、心の中の「？」を自分で解決しましょう。
- ④ 公立図書館等をじょうずに使いましょう。家でも本を読みましょう。
- ⑤ 自分で決めたことは、最後までやり通しましょう。困ったときには、大人に相談しましょう。
- ⑥ 習った漢字は必ず使うようにしましょう。忘れたら、教科書や国語辞典で調べましょう。